

両総管内に広がる外来生物の駆除へ

両総管内では、近年外来生物による被害が拡大し、生態系のみならず農業用施設の運転や水稻経営に甚大な被害を及ぼしております。両総土地改良区、両総用水事業推進協議会では外来生物の徹底的な駆除技術の開発を国や千葉県に対し要望しておりますが、地域全体で防除対策に取り組むことにより被害を軽減することができます。

ナガエツルノゲイトウ

南アメリカ原産で世界中に定着し、日本へは観賞用の水草として持ち込まれました。**香取地区**での繁茂が著しく、茎の破片からでも再生する繁殖力を持ち、水面上に繁茂することで水流を停滞させる他、排水機場の除塵機には群落で押し寄せ運転に支障を与えています。また、特定外来生物に指定されていることから、運搬や保管も法律で管理されています。



第1排水機場除塵機

背高にはならず地面を這い、横へ横へと広がってゆく

ジャンボタニシ(和名:スクミリンゴガイ)

南アメリカ原産で、日本へは1980年代に養殖用に持ち込まれ野生化しました。水田や水路で越冬し、気温が上昇すると活動を始め定植直後の水稻苗を食害し、稻や水路の壁にピンク色の卵を産みます。**九十九里沿岸**を中心に被害が急速に広がり、収量にも大きな影響をもたらします。



食害を受けた水田



水路壁の卵塊(一卵塊には200個近くの卵)

卵には毒性があり決して素手で触ってはいけません



丸みを帯びた殻と長い触角が特徴



有効とされる防除対策

収穫後

- ・秋期の石灰窒素散布
- ・冬期の耕うん
- ・水路の泥上げ
- ・農業機械の洗浄

田植え前

- ・水路からの侵入防止(ネットや金網)
- ・水路での殺卵・補殺

田植え時、田植え後

- ・中成移植
- ・早植え
- ・浅水管理
- ・薬剤散布
- など

(農林水産省消費・安全局植物防疫課より)